

「令和5年の漢字は？」

世相を漢字 1 文字で表現する「今年の漢字」が 12 月 12 日、京都・清水寺で発表されました。今年「税」、皆様はいかがでしょう？

私は「捨」です。先月は3日間の断食生活を送り、脂肪をちょっとだけ捨てました(笑)。

それも、りゅうま伝 10 月号にも書いたとおり、母の終活をしてみても、「捨てる」ことの大切さを実感したからでしょうか。何を捨てるかは何を遺すかという問題でもあります。母のモノ、亡父のモノ、家族のモノを捨てながら、人間にとって本当に必要なモノを吟味するようになりました。

そうやって「捨てる」を意識していたら、ふと、今年 2 月、富士山の麓で行われたセミナーの講師を思い出しました。お嬢様育ちの女性経営者のお話。親のコネで会社を作り、当初は上手くいくも徐々に赤字へ転落。もう閉めなければと思いつつ、ズルズル損害を垂れ流し、事件が起こる。そしてその苦難を乗り越えて清算。たしかそんな話でした。

早く清算したら良いのに出来ない。「いつか取り返せる」、そう思っていたと言います。正直、その話を聞きながら、「この人、お嬢さん育ちの甘ちゃんやな～」なんて感情を抱いたものです。とても不快な話でした。

でも「捨てる」を意識するようになって、自分も同じことをしてるなって気づいたのです。書齋には、あふれんばかりの本。それも買っただけで読んでないものが山積み。私は講師に私自身を見ていたのかも知れません。

この本を読んで、「いつか取り返してやる」と思ってたからです。「いつか時間が出来たら・・・」で何年も先送り。「いつか」は来ませんでした。

という訳で思い切って本を売却処分しました。自己啓発に買った高額な CD や DVD は思い切って捨てました。ネットで転売すれば、ちょっとしたお小遣いにもなったでしょうけれど、本以外は全て捨てました。

捨てるかどうか？迷ったものも捨てました。「片付けの魔法」を書いた近藤麻理恵さんがいうように、手にとった時、「ときめき」があるかないかを基準にしたら随分、書齋はスッキリしました。

「捨てに捨て 捨ててまた捨て 捨ててこそ まことの我は 現れると知れ」

倫理研究所の創設者・丸山敏雄氏の歌の意味が少しだけわかるようになりました。食い意地だったり、わがままだったり、執着だったり、まだまだ沢山捨てるべきものはありそうで、「まことの我」は遠い気もします。

けれど少しずつ脱皮して参りますので、皆さま、どうか来年もよろしく願います。